



おおくす 大楠

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信
第17号 令和2年1月8日
小美玉市立玉里東小学校



2020年もよろしくお祈いします



2020年(令和2年)が始まりました。今年の干支「子(ねずみ)」は、本来「孳」という字で、新しい十二支のはじまりとなり、「種子の中に新しい生命がきざし始める状態」を指すのだそうです。そうした意味では、「心機一転、今年こそ」というには格好の年なのかもしれません。冬休み中は、家族や親戚と心温まる交流ができたことと思います。そうした豊かな心を3学期スタートの励みとして、またはりきって勉強や運動に打ち込んでほしいと思います。今年もどうぞよろしくお祈いいたします。

…
(一部抜粋)

さらに気持ちのよいあいさつのために

校長

元気なあいさつをされて、悪い気持ちがする人はいません。東小の子は、ほとんどあいさつができる子たちですが、さらによいあいさつができるのではと思っています。始業式の式辞の中で、このことにふれました。あいさつは、

あ … 明るく
い … いつも
さ … 先に
つ … 伝わるように



では、あいさつはなぜ大切なのでしょう。それは、あいさつは「みんなを幸せにする心の窓を開けるカギ」だからです。あいさつをすることで、第一印象がよくなります。相手に自分の心が開けると、相手の警戒心もとけ、さらに会話をしやすくなる雰囲気になります。また、笑顔はあいさつから生まれます。人は、幸せだから笑うのではなく、笑うから幸せになるのです。つまり、あいさつには人を幸せにする力があるのです。あいさつができる人は、どのような場でもかわいがられます。東小の子供たちに、ぜひ「さらに気持ちのよいあいさつ」を身に付けてほしいと思っています。

ご家庭でも、朝、元気なあいさつで子供を送り出してください。保護者の方の明るい「行ってらっしゃい」が、きっと学校で元気に生活するエネルギーになるはずですよ。